ボランティア

==========Volunteer====

記念館だより
vol.91
2009年12月

（完成した新賀川記念館）

献館式を慶ぶ

理事長　木村量好

賀川豊彦は 1909 年 12 月 24 日に当時スラムと呼ばれていた地域に住み込み、「救霊団」として地域の人々と共に生き支援する働きをはじめました。そこで弱い立場におかれていた子どもや女性、職の無い人々や病人たちが人間らしく生きてゆくために気がつくままに手当たり次第に支援を展開しました。やがてこれらの活動は組織的な消費組合や労働組合や農民組合に発展し、更に信用組合や医療組合等々の多岐にわたる協同組合運動へと展開していきました。賀川豊彦は、私たちの暮らしを支える根幹を築くことに力を注ぎ、その生涯を捧げられたのです。

（次ページへ）

1960 年賀川が天国に召された後、「セツルメント運動の根本原理は人格交流運動である」という賀川の考えを継承する拠点として、旧賀川記念館が誕生したのは 1963 年のことでした。そして今、46 年の時を経て、賀川豊彦献身 100 年記念の年に、新しい賀川記念館の竣工を迎えることができました。

地域の方々をはじめ、兵庫県や神戸市等行政の方々、そして神戸プロジェクトに連なる様々な団体、そして教会等、紙面に書ききれないほどの多くの方々の祈りと努力の積み重ねがあったかと思い、心から完成を慶ぶと共に、神のご恩寵を思い、深い感謝を献げるものであります。

新賀川記念館は、「救霊団」当時の活動を思い起こし、現代のニーズの即した、セツルメント運動を展開することを目的として建築が進められてきました。時代潮流や地域福祉ニーズをとらえるための調査、研究そして発信していくための総合研究所、隣接する真愛ホームや二宮児童館そして館内の友愛幼児園と連携した地域福祉活動、地域の方々が集い交流し、そして共に喜び悲しみを分かち合える礼拝堂とカフェ、賀川の精神を継承発信していくミュージアム等、今後 100 年先を見越してここに参加する者が自らの存在と方向性を刺激され、新しく決意するきっかけが与えられるように仕組まれ、工夫されたものであります。

ここで大切なことはこの記念館が決してイエス団の職員の活動のためだけに建てられたものではないということです。賀川献身 100 年記念事業で協力しあった団体と個人そして地域の方々と共に、創造的に楽しく賀川記念館の目的を具体化することができるか、大いに期待されるところです。同時に地域住民にとっても賀川豊彦を熟知する機会となり、郷土の誇りとなることを願うところであります。

新しい記念館が生まれ、これを献館するこの機会に、多くの方々のご努力やご加護やご支援に感謝すると共に理事長としての夢や希望を述べて、新会館の献館を慶ぶ言葉と致します。

（↑献館式にて挨拶をされる木村量好理事長）

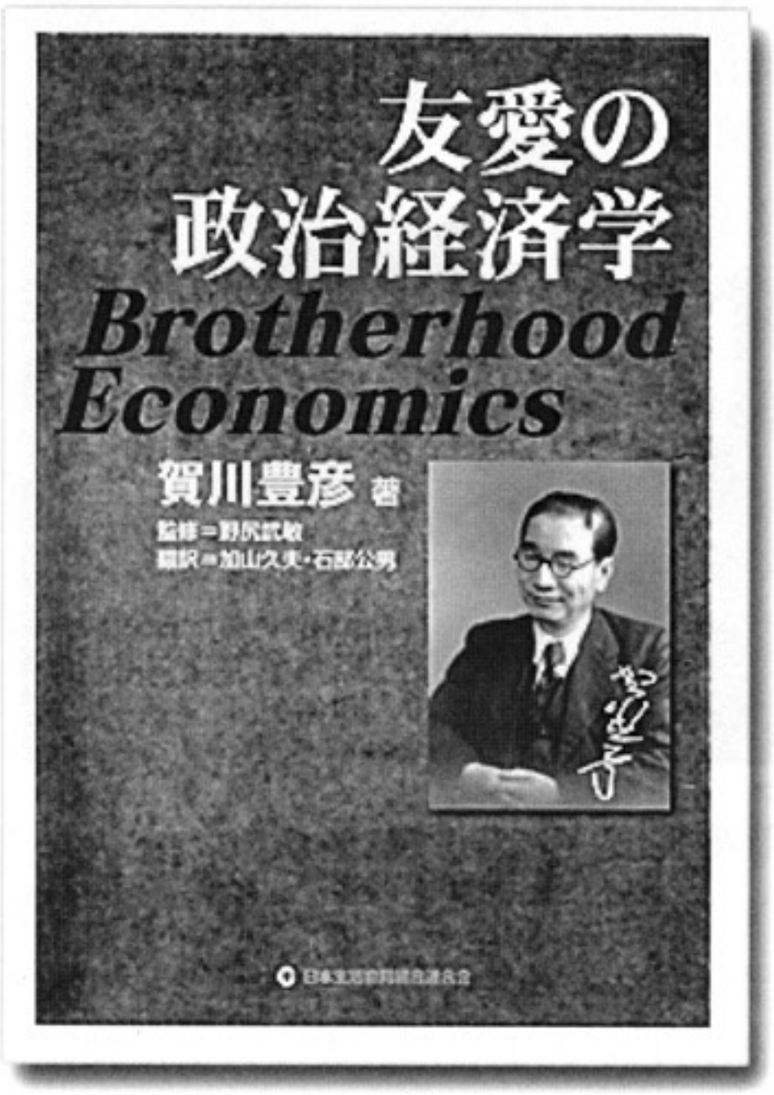
（12 月 12 日当日は総勢 200 名の方々にお越しいただきました。
これからもご支援、どうかよろしくお願いいたします）

賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト活動報告

顧問　西　義人

この秋に行いました神戸プロジェクトの事業をお知らせいたします。

劇画『死線を越えて』―― 賀川豊彦がめざした愛と協同の社会 ――を出版しました。賀川先生の行われた事業は『貧しい人達のための救済事業』、『労働組合運動』、『農民運動』、『生協などの協同組合運動』、『ボランティア運動』、『共済・保険の相互扶助運動』『キリスト教運動』、『平和運動』、『幼児教育』などですが、それらがよく分かるように、大きく6つに集約されて、賀川先生の業績が小学生から大人まで理解しやすく描けています。



『友愛の政治経済学』を出版しました。

本書の原名は Brotherhood Economics ですが、賀川豊彦のこの英文著書が米国で出版されたのは73年前の1936年です。

賀川は1935年から36年に掛けて11ヶ月間全米で講演旅行をしており、その際、ロチェスター神学校で『キリスト教の兄弟愛と経済再建』(Christian Brotherhood and Economic Reconstruction)というテーマで4回にわたってラウシェンブッシュ記念講演を行いました。それが纏められて一書となりアメリカで出版されたのが、この本の原書です。

序文によりますと、原稿はアメリカに向かう船の中で執筆されたようです。1936年といいますと世界がまだ大恐慌の余波に苦しんでいた時代で、賀川の全米講演旅行は当時のルーズベルト政府の招きによるものでした。この講演の英文の本は翌年はロンドンでも版を重ね、17カ国語に翻訳され、25ヶ国で販売されていました。しかし日本では翻訳がされていませんでしたので、献身100年の記念事業の一環として、邦訳・出版いたしました。(発刊に寄せてより)

当時、資本主義と共産主義に変わる思想とされた『協同組合主義の教科書』とされたといわれています。賀川の思想の輪郭が理解できる貴重な一冊です。

11月15日に『賀川豊彦献身100年』を記念して、コープこうべと共催で『第九コンサート』を行いました。パネル展も同時に行いました。1800人の参加でした。

11月1日と8日に2回『賀川ウオーク』を行い160人の参加がありました。
15名の語り部の引率により実施しました。

神戸100年映画祭に『死線を越えて』を上映し、翌300名の人に感動を与えました。

100周年のイエス団教会―熱く再出発する教会－

神戸イエス団教会牧師　上内鏡子

賀川豊彦は、日本基督教団神戸イエス団教会の初代牧師です。亡くなる1960年まで初代牧師としての責任を果しました。創立当初、賀川はクリスマス・イヴの夜、献身の決意をしたと伝えられています。もちろん、教会堂という形はなく、長屋の一室の「祈り」から始まったでしょう。しかし、賀川が神戸葺合生田川沿いの町へ住み込む決心をした時こそが、教会の創立として相応しいと考えています。決意が神の言葉を生かす最大の力であると考え、教会堂が建てられるよりも意味深いと考えるからです。賀川は40年ほど後に、このことを『身辺雑記』で回想していますが、心の中でチャールズ・ディケンズの小説「クリスマス・キャロル」の物語を思いながら、決意を実行に移したと書いています。「クリスマス・キャロル」は、スクルージという老人のお話です。金持ちでケチな老人が、クリスマス・イブの夜、ロンドンの町で沢山の貧しい人々に出会い、その生き方を変えられ、12月25日のクリスマスを迎えると云う物語です。つまり、青年賀川の決意は、教会の伝道が人々と共に生きることから始まるという決意だったのでしょう。

上の写真は4階礼拝堂

神戸イエス団教会は、賀川の献身の決意を教会の使命の一つとして大切にしてきました。人々と共に神の備えられた道を歩むという決意。そして、賀川献身100年目の今年は、献身の決意を再確認する最良の時です。「誰と共に生き、誰と共に歩むのか。」「何を目指して、その働きを遂行していくのか。」こんなことを考えながら、教会100周年クリスマス・イヴ礼拝に臨む所存です。

2009年12月、賀川記念館が新しく生まれ変わりました。長屋の一室の「祈り」は、21世紀の賀川記念館の礼拝堂として生まれ変わりました。祈りの場、決意を再確認する場、決意を実行に移す場として、ますます新しい働きを展開していく使命に、教会は胸を熱くしています。また、教会員一人ひとりは、「クリスマス・キャロル」のスクルージのように、新しく生まれ変わる勇気をもち、賀川記念館において教会活動を積極的に展開して行きたい所存です。(今年は、偶然にもディズニー映画でこのクリスマス・キャロルが放映されています。)

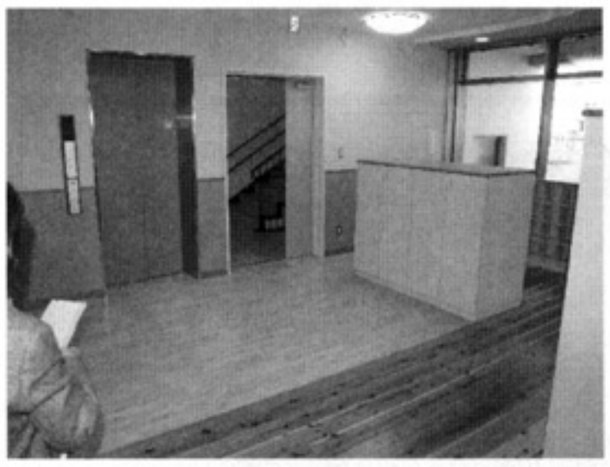
←写真は4Fにあるステンドグラス
キリストが弟子の足を洗っている様子が描かれている。

新記念館各階の紹介

１Ｆ　医療モール　教会・友愛・記念館入口

１Ｆは医療モールとなっています。
予定では、３科の診療所と１つの薬局を予定しています。また、１Ｆロビーのトイレは、透析患者の対応がなされている、高度なものとなっています。どんな方でも安心して利用できる施設を目指していきます。
（←１Ｆ屋外部分）

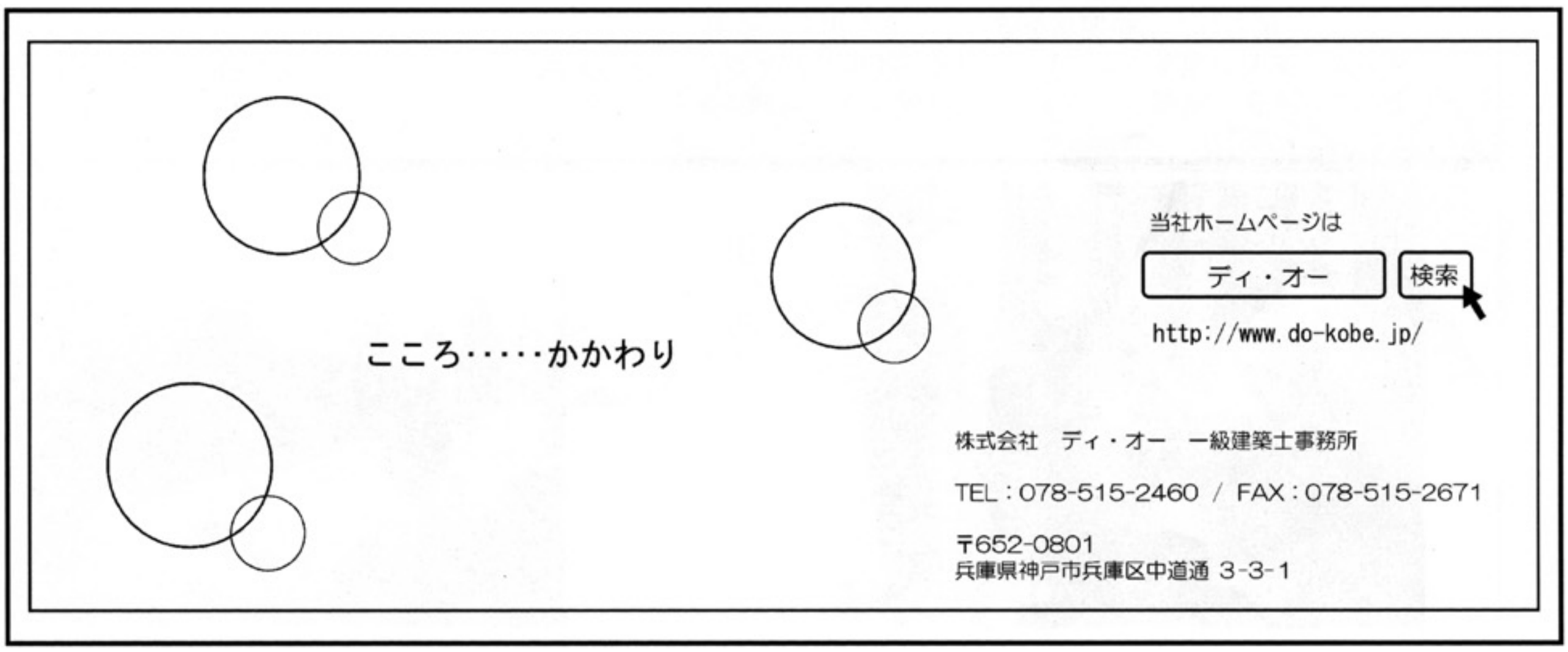
２Ｆ　友愛幼児園（３歳～５歳児・ひまわり学級）



友愛幼児園（２Ｆ・３Ｆ）への出入り口はここの２Ｆとなっています。万全なセキュリティを保つため、緊急時以外の出入りはここのみとなっています。ひまわり（学童保育）の子どもたち、くじらぐも（障がい児支援）の子どもたちもここが入り口となります。
右の写真は園庭。土でできているため、子どもたちは思い切り遊ぶことができます。

３Ｆ　イエス団本部事務局　賀川豊彦献身 100 年記念事業神戸プロジェクト事務局
友愛幼児園（０歳～２歳以下・くじらぐも）
４Ｆ　教会礼拝堂　ミュージアム・研究所（メモリアルホール）　広場（カフェ）
５Ｆ　牧師室

賛助広告



真愛ホームだより

神戸市中央区日暮通５丁目５－８
特別養護老人ホーム・東部高齢者介護支援センター　TEL(078)251-7000　FAX(078)251-7020

地域密着型サービス運営推進会議上半期実績報告

特別養護老人ホーム 東部高齢者介護支援センター

2009年５月
新型インフルエンザの影響(利用者の発症者なし)により中止

2009年７月19日(日)　14：00～15：00
1．奥知Drより新型インフルエンザの発生状況
2．地域包括支援センター(新管理者就任挨拶)
3．神戸市監査評価報告
4．介護職員人材不足及び外国人介護士について
5．学童交流報告(パフェづくり)
6．質疑応答・協議確認
(運営推進会議家族参加状況について)

2009年９月20日(日)　14：00～15：00
1．ターミナルケア(看取りケア)の実施報告
2．奥知Drよりターミナルケアにおける心得

東川崎小規模多機能型居宅介護「ゆうき」

2009年５月
新型インフルエンザの影響(利用者の発症者なし)により中止

2009年７月15日(水)　14：00～15：00
1．「ゆうき」利用状況、活動内容について報告
2．家族アンケート集計報告
3．地域活動・防災対策について
4．藤見Drより新型インフルエンザ対応について
5．淡路日帰りツアー実施報告

2009年９月16日(水)　14：00～15：00
1．「ゆうき」利用状況、活動内容について報告
2．「ゆうき」におけるインフルエンザ対策
3．防災訓練について

東川崎高齢者ケアセンター真愛10周年報告

東川崎高齢者ケアセンター真愛は、2009年11月11日で設立10周年を迎えることが出来ました。これもご利用者様やご家族、地域の自治会・婦人会・老人会・民生委員の方々に過分なるご助力とお支えのお陰であり、心より感謝申し上げます。

この10年の間に、センターの増改築や地域密着型の小規模多機能型居宅介護「ゆうき」の事業開始など様々な展開がありました。設立当初からお世話になった方々にセンターで11月８日のひと時、会食懇談・スライド鑑賞で懐かしい話を聞いたり、ボランティアさんの沖縄民謡演奏を聴き共に懐メロを口ずさみました。

デイサービス利用者は、淡路島ドライブに出かけたり、エコバックのプレゼントに大変喜ばれました。

10年で創られた信頼関係を感じることが出来、感謝とさらなる励ましの言葉を与えられました。「気安い真愛さん・来易い真愛さんで!」のお祝い言葉のように、「今後も気軽に足を運んでもらえる施設（地域密着）」として、今後も頑張っていきたいとスタッフ一同強く感じました。

友愛幼児園だより

神戸市中央区吾妻通５丁目２－20
保育目標[共に生きる工夫のできる子ども]　ＴＥＬ(078)231-5818　ＦＡＸ(078)231-2891

敬老の集い

９月１５日、おじいちゃん　おばあちゃんをお招きして＜敬老の集い＞をしました。

クラス毎に分かれそれぞれのクラスで一緒にゲームをしたり、いろんなお話を伺ったりして、みんなニコニコ笑顔で楽しいひとときを過ごしました。

新しい園舎へ

月に一度　４歳児・５歳児は建築現場に出かけていきました。新しい建物が出来上がっていく様子を身近にみて工事に関わってくださっている方々に感謝し、現場の方よりお話を聞いたり質問したりと貴重な体験をする機会を持つことができました。

仮設園舎の片隅で

昨年の９月から仮設園舎での保育が始まりました。

プレハブの建物ですが、窓からは季節の移り変わりを感じてすごしました。園庭の片すみには畑を作り（ミズナ・さつまいも・大根・人参）など栽培して、美味しく味わいました。

＜写真に写っているのは、育てた大根の葉っぱです。＞

１年４ヶ月の仮設園舎での生活でしたが、今までと違った経験をすることができ、それぞれ楽しんですごすことができました。感謝

伝言板

■ノーベル平和賞候補であった賀川豊彦がノーベル文学賞にも２回ノミネートされていたことが分かり話題となっています。■神戸新聞など各紙で賀川豊彦に関する記事が掲載されています。事務局のホームページに転載させていただいています。■先日、賀川豊彦が洗礼を受けたローガン氏のお孫さんが来神されました。神戸の外国人墓地にあるローガン氏の奥さん（パティ・ローガンさん）の墓参をすることが出来ました。■西氏の報告以外にも書籍「賀川豊彦とそのボランティア」が店頭に並びましたのでご紹介させていただきます。また、映画「死線を越えて」の短縮40分版も好評をいただいています。お近くでご購入いただけない場合などは事務局へご連絡下さい。■各地でパネル展を実施しています。累計15000人の方に見ていただきました。これからも機会がございましたら、ぜひご覧下さい。■その他2010年からの活動については下記ＵＲＬへアクセスしてください。

☆賀川豊彦の文学　神戸文学館企画展
2010年３月22日まで 於神戸文学館
☆賀川記念館ミュージアムオープン
2010年４月１日
詳細については下記にお問い合わせ下さい
神戸プロジェクト事務局
神戸市中央区吾妻通5-2-20
TEL・FAX:(078)221-3627　Eメール:office@core100.net
URL　http://www.kagawa100.com/

編集雑記

友愛幼児園は 12 月７日から新園舎で保育を開始しました。４Ｆのミュージアム・研究所は４月１日オープンです。神戸イエス団教会の礼拝は12月６日から開始されています。ぜひ一度、足をお運びください。（耕士郎）

賛助会・建築募金のお願い
今年度も記念館の働き、新館建築への
ご支援をよろしくお願いします。

《　賀川記念館運営理事会　》

顧　問　高村　勣
理事長　今井　鎮雄
理　事　緒方 彰・崎山 昌廣・野上 文夫
羽根田一清・藤田 義隆・堀 みなえ
村山　盛嗣・米満　弘
監　事　有川　善雄

▼賛助会費・寄付金振込先
近畿労働金庫　神戸支店　（普通）　NO.４０２１７５１
口座名義　社会福祉法人　イエス団　賀川記念館
郵便局　０１１４０－８－３７２１
口座名義　社会福祉法人　イエス団　賀川記念館

ボランティア　Vol.91
発行日　2009年　12月25日
発行所　賀川記念館
発行者　高田　裕之
神戸市中央区吾妻通５－２－20
TEL　078（221）3627
E-mail kobe-kagawa@mbr.nifty.com

賛助広告

株式会社　神　崎　組
取締役社長　神　崎　文一郎
本　　社　姫路市北条口三丁目22番地
T E L　姫路(079)223－2021(代表)
F A X　姫路(079)281－8191
支　　店　大阪・神戸